

P-15

ニューロカルシン免疫陽性 神経終末のマウス副腎髄質 内における不均一分布

飯野 哲 小林 繁

名古屋大・医・第1解剖

ニューロカルシンは、ウシ脳より見つけられた3個のEFハンドをもつカルシウム結合蛋白質である。我々はマウス副腎髄質をニューロカルシンの抗血清（名大薬理・日高教授供与）で免疫組織化学的に調べた。

ニューロカルシンの免疫活性はマウス副腎髄質内の神経線維、神経終末及び神経節細胞に局在した。神経線維は束となって走行、枝分かれ後はボタン状に膨らみ神経終末をクロム親和細胞のまわりに形成した。神経終末を作る部位は髄質内で不均一で、密な部位（線維と終末が網目状に分布）と粗な部位が見られた。密な部位はカテコールアミンの蛍光組織化学によりノルアドレナリン(NA)細胞の集団と一致した。

ニューロカルシンはマウス副腎髄質では神経線維・神経終末に存在し、その分布はNA細胞のまわりに多いことがわかった。これはNA細胞とA細胞の神経支配とその化学的特性の違いを示唆する。

P-16

マウス小脳ブルキンエ細胞はTH、AADCを発現するがカテコールアミンを生合成しない

酒井正雄¹、天野隆二¹、藤井徹也²、永津郁子¹

¹藤田保健衛生大・医・第2解剖

²愛知県看護大

マウス小脳ブルキンエ細胞に発現するチロシン水酸化酵素 (TH)、芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素 (AADC) 含有細胞は2%NaCl 飲水時、老齢時に数が増加することを免疫組織化学的手法にて認めた。実験には成熟マウス (2-7ヵ月) に2%NaClを2週間飲水させたものと、老齢マウス (12-14ヵ月) を用いた。出現場所は小脳尾側虫部、片葉、旁片葉を主として、いずれの場合もTH陽性ブルキンエ細胞のほうがAADC陽性細胞より多かった。これらの陽性細胞ではTHの補酵素テトラヒドロピオブテリンの生合成酵素GTP cyclohydrolase I (GCH) に対する抗体の反応は陰性であり、抗L-DOPA抗体も陰性であった。よってブルキンエ細胞はカテコールアミン合成酵素を発現するがL-DOPA, Dopamineなどは合成していないことが示唆された。またTH, AADCの発現の調節も別々になされている可能性が考えられた。